

7 番の歌 エホバは私たちの力

エホバは「生きている神」

「エホバは生きている」。

詩編 18:46 エホバは生きている。私の岩が賛美されますように。私の救いの神がたたえられますように

ポイント：私たちが崇拜しているのは「生きている神」です。そのことを心に留めておくのはとても大切です。

1. エホバの証人が問題に直面してもエホバに仕え続ける上で、どんなことが役立っていますか。

聖書は今の時代を「困難で危機的な時」と表現しています。（デモニ 3:1 このことを知っておきなさい。終わりの時代は困難で危機的な時になります）それで誰もが問題を抱えています。エホバの証人はそうした問題に加えて反対や迫害を経験することがあります。そのような大変な状況の中でも、私たちはエホバに仕え続けることができます。エホバが「生きている神」であることを、経験を通して知っているからです。（エレ 10:10 しかし、エホバは本当に神である。生きている神、永遠の王。その方の憤りによって大地は震え、どの国民もその方の糾弾に耐えられない。デモニ 1:12 それで私はこのような苦しみに遭っていますが、そのことを恥じてはいません。自分が信じてきた神を知っており、自分が神に託したものを定めの日まで守っていただけると確信しているからです）

2. エホバが生きている神であるといえるのはどうしてですか。

2 エホバは現実の存在です。私たちが試練に遭う時に支え、いつでも助けようとしてくれます。（代二 16:9 エホバは、心の全てがご自分に向いている人の力(*支え)になろうとして、世界中に目を行き届かせています。今回の件であなたは愚かなことをしました。これからあなたに対する戦争があります。詩 23:4 深い陰が覆う谷を歩んでも、何も悪いものを恐れない。あなたが共にいてくださるから。あなたの棒とつえによって安心できる(*慰められる)）エホバが生きている神であることを考えると、どんな試練が来ても忍耐する助けになります。ダビデの例を考えてみましょう。

3. ダビデはどういう意味で「エホバは生きている」と言いましたか。

3 ダビデはエホバのことをよく知っていて、エホバに頼りました。サウル王が率いる敵たちに命を狙われていた時、助けを求めてエホバに祈りました。（詩 18:6 苦難の時に私はエホバに呼びかけた。私の神に助けを求めて叫び続けた。神殿にいる神が私の声を聞いてくださった。助けを求める叫びが神の耳に届いた）その祈りが聞かれてエホバに助け出された後、「エホバは生きている」と言いました。（詩 18:46 エホバは生きている。私の岩が賛美されますように。私の救いの神がたたえられますように）ここでダビデは、単にエホバが存在していると言っていたわけではありません。ある文献によると、ダビデはエホバについて、「ご自分に仕える人たちのためにいつでも行動する生きている神」とであると

いう確信を言い表していました。ダビデは自分の経験を通して、エホバが生きていることを実感しました。そしてその確信は、エホバに仕え、エホバを賛美したいという決意を強めるものになりました。（詩 18:28, 29 エホバ、私のランプをともしてくださるのはあなた。私の闇を照らす私の神。29 あなたの助けで、私は略奪隊に突撃できる。神の力によって、城壁をよじ登れる、49）それで、エホバ、私は国々であなをたたえ、あなたの名を賛美して歌う(*名のために音楽を奏でる))

4. エホバが生きている神であることをいつも考えているなら、どんな良いことがありますか。

4 エホバが生きている神であることを確信しているなら、エホバに熱い心で仕えることができます。試練を忍耐する力が湧き、一生懸命奉仕を続けたいという気持ちになります。また、エホバから離れないという決意を強めることができます。

生きている神エホバは力づけてくれる

5. どんなことを考えると、試練に遭っても大丈夫だと思いますか。（フィリピ 4:13）

5 エホバが生きていて何があっても助けてくれることを忘れないでいるなら、どんな試練も忍耐できます。エホバにとって難し過ぎる問題はありません。エホバは全能者で、私たちに忍耐する力を与えることができます。（フィリピ 4:13 力を与えてくださる方のおかげで、私は強くなり、どんなことも乗り越えられます(*行えます)を読む。）それで、エホバが助けてくれることを確信できます。試練に遭った時にエホバの助けを実感すると、もっと大きな試練に直面しても大丈夫だと思えるようになります。

6. ダビデは若い頃に、エホバへの信頼を強めるどんな経験をしましたか。

6 ダビデがエホバへの確信を深めた出来事について考えてみましょう。ダビデが若い頃に父親の羊の世話をしていた時、熊やライオンがやって来て群れから羊を奪っていったことがありました。どちらの場合も、ダビデは勇敢に後を追いつけて羊を助け出しました。でも、ダビデはそのことを自分の手柄にはしませんでした。エホバが自分に力を与えてくださったことを知っていたからです。（サムー 17:34-37 ダビデはサウルに言った。「私は父の羊の羊飼いになりましたが、ライオンや熊が来て群れから羊を奪っていくことがありました。35 私は後を追いつけて、打ち倒し、くわえられていた羊を助け出しました。野獣が襲いつけてくると、私は毛(*顎アゴ)をつかんで打ち倒し、殺しました。36 私はライオンも熊も打ち倒しました。この割礼を受けていないフィリスティア人も同じようになります。生きている神の戦列に挑んだ(*をあざけた)からです」。37 ダビデはさらに言った。「ライオンや熊から助け出してくださったエホバが、このフィリスティア人からも私を助け出してください」。そこでサウルはダビデに言った。「行きなさい。エホバがあなたと共にいてくださいますように」）ダビデはこうした経験を決して忘れませんでした。そのことについてじっくり考え、生きている神エホバがこれからも力を与えてくださるという確信を強めることができました。

7. ダビデはどんな見方をしていたので、ゴリアテに立ち向かうことができましたか。

7 ダビデは後に、おそらくまだ 10 代の頃、イスラエルの陣営に出掛けていきました。兵士たちは、フィリスティア人の巨人ゴリアテが「イスラエルの戦列をあざけ」るのを聞いておびえていました。（サムー 17:10, 11 フィリスティア人ゴリアテは言った。「今日、俺がイスラエルの戦列に挑んで(*をあざけって)やる。誰か 1 人を出せ。掛かってこい！」 11 サウルとイスラエル全体はこのフィリスティア人の言葉を聞き、おびえ、非常に恐れた、脚注) その巨人やあざけりの言葉に注目したので恐れてしまったのです。（サムー 17:24, 25 イスラエルの人たちは皆、その男を見て恐れ、逃げ出した。 25 イスラエルの人たちは言った。「やって来たあの男を見たか。イスラエルに挑む(*をあざける)ために来たのだ。あの男を討ち取る人がいれば、王は多額の報酬を出し、自分の娘を与え、その人の父の一家をイスラエルの中で優遇してさまざまな義務を免除するそうだ」）でもダビデの見方は違いました。ダビデは、イスラエル軍をあざけているゴリアテが実際のところは「生きている神の戦列」をあざけている、ということを分かっていました。（サムー 17:26 ダビデはそばにいた人たちに言った。「あのフィリスティア人を討ち取ってイスラエルの屈辱を晴らす人には、何が与えられるのですか。生きている神の戦列に挑む(*をあざける)とは、この割礼を受けていないフィリスティア人はいったい何者なのですか」）ダビデは何よりもエホバのことを考えていました。羊の世話をしていた時にエホバの助けを経験していたので、今回も助けしてくれると信じていました。そして、神の支えを確信してゴリアテに立ち向かい、勝利しました。（サムー 17:45-51 ダビデはそのフィリスティア人に言った。「あなたは剣とやりと投げやりを持って向かってくるが、私はあなたが挑んだ(*あざけた)イスラエルの戦列の神、大軍を率いるエホバの名によって向かっていく。 46 今日、エホバはあなたを私の手に渡し、私はあなたを討ち、あなたの首をはねる。私は今日、フィリスティア人の陣営の死体を鳥や野獣の餌にする。地上の人々は皆、イスラエルに神がいるのを知ることになる。 47 ここに集う人(d*この会衆)は皆、エホバが私たちを救うのに剣ややりを必要とはしないことを知る。戦いはエホバのものだからだ。神はあなた方皆を私たちに渡してください」。 48 フィリスティア人ゴリアテはダビデの方に近づいてきた。ダビデはゴリアテに立ち向かうため、敵の戦列へ勢いよく走った。 49 ダビデはかばんに手を入れて石を 1 つ取り、石投げ器で投げ、彼の額を撃った。石は額にめり込み、彼はうつぶせに倒れた。 50 こうしてダビデは石投げ器と石だけでそのフィリスティア人に勝った。撃ち倒して殺したのである。ダビデの手に剣はなかった。 51 ダビデは走り寄って彼のそばに立った。それから彼のさやから剣を抜き、それで首をはねて確実に殺した。フィリスティア人たちは仲間の強い戦士が死んだのを見て、逃げていった）

8. 試練に遭ってもエホバに目を向け続けるために、何ができますか。（写真も参照。）

8 私たちも、生きている神エホバがいつでも助けしてくれることを覚えているなら、試練を忍耐できます。（詩 118:6 エホバは私の側にいてくださる。私は恐れない。人が私に何を行えるだろう）エホバがこれまでしてきたことを考えると、そのことへの確信が深まります。聖書を読んで、エホバがご自分に仕える人たちをどのように救ったかに注目しましょう。（イザ 37:17 エホバ、耳を傾けて聞いてください！ エホバ、目を開いてご覧ください！ セナケリブが送ってきた、生きている神へのあざけりの言葉全てを聞いてください、 33-37 エホバはアッシリアの王についてこう言う。「彼がこの都市に入ることはない。そこに矢を射ることも、盾を持って立ち向かうことも、攻めるための土塁を築くこともない」』。 34 エホバはこう宣言しています。『彼は来た道を帰り、この都市に入ることはない。 35 私はこの都市を守って救う。自分のため、私に仕えたダビデのためである』。 36 それからエホバの天使が出ていき、アッシリア人の陣営で 18 万 5000 人を討った。人々が朝早く起きて見ると、皆、死んでいた。 37 それで、アッシリアのセナケリブ王はそこを去り、帰ってニネベにとどまった）jw.org のウェブサイトの報告を見ると、エホバが現代の兄弟姉妹をどのように支え

てきたかも知ることができます。自分自身のためにエホバがどのように行動してくださったかを思い出すことも大切です。熊やライオンを倒すというような劇的な経験をしたことがなくても大丈夫です。エホバは私たちのためにいろいろなことをしてくださっています。ご自分の友になるよう引き寄せてくださいました。（ヨハ 6:44 私を遣わした父が引き寄せてくださらない限り、誰も私のもとに来ることはできません。私はその人を終わりの日に復活させます）私たちが今エホバに仕えることができているのも、ひとえにエホバのおかげです。祈りが聞かれたこと、ぴったりのタイミングで助けてもらったこと、大変な時に支えてもらったことを思い出せるようエホバに祈りましょう。そうしたことを考えるなら、エホバがこれからも私たちのために行動してくれるという確信が深まります。



自分が経験している問題をどのように見ますか。（8-9節を参照。）

9. 試練についてどんな見方ができますか。（格言 27:11）

9 エホバを生きている現実の存在と見ることは、試練に対する正しい見方を持つ上で助けになります。自分が経験している問題を、エホバと悪魔サタンが関わる大きな問題の一部と見ることができます。サタンは私たちについて、つらい経験をするとエホバから離れるだろうと主張しています。（ヨブ 1:10, 11 彼も家族も全ての持ち物も、あなたが柵で囲んで守ったものではありませんか。あなたの祝福によって彼の仕事はうまく運び、家畜は非常に多くなりました。11 試みに、あなたの手を出して、彼の持つもの全てを破壊してください。彼はきっと面と向かってあなたを侮辱します。格言 27:11 わが子よ、賢くあって、私の心を喜ばせよ。私をあざける(*に挑む)者に私が答えるためであるを読む。) 私たちが試練に遭ってもエホバから離れないなら、エホバを愛していることを証明し、サタンがうそつきであることを明らかにできます。今、政府からの反対を受けたり、経済的な問題を抱えたりしていますか。伝道してもあまりいい反応がなかったりするのでしょうか。そういう難しい状況も、エホバに喜んでもらえるチャンスになるということを忘れないでください。エホバは私たちが耐えられないほどの試練を受けるままには決してされません。（コリ 10:13 皆さんが受けてきた誘惑は、多くの人が同じように経験してきた誘惑です。神は信頼できる方で、皆さんが耐えられないほど誘惑を受けるままにはしません。出口を設けて、誘惑に耐え切れるようにしてください) 私たちが忍耐できるように力を与えてくださいます。

生きている神エホバは報いを与えてくれる

10. 生きている神エホバはご自分に仕える人にどんなことをしてくれますか。

10 エホバはご自分に仕える人に報いてくださる方です。(ヘブ 11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはありません。神に近づく人は、神が存在し、熱心に仕えようと努める人たちに報いてくださる、ということを感じなければなりません) 私たちに今穏やかな心や満足感を与え、将来、永遠の命を与えてくれます。エホバが私たちに報いを与えたいと思っていることや、そうする力を持っていることを私たちは確信しています。そう考えると、一生懸命エホバに仕えたいと思うようになります。エホバに仕えていた昔の人たちもそうでした。そのうちの1人であるテモテの例を考えましょう。(ヘブ 6:10-12 皆さんはこれまでずっと聖なる人たちに仕え、今も仕え続けています。そのようにして、神の名を愛していることを示してきました。神は不公正な方ではないので、そうした働きや愛を忘れたりはありません。11 私たちは、皆さん一人一人が同じ勤勉さを示し続けて、希望に対する揺るぎない確信を最後まで保ってほしいと思っています。12 怠けたりせず、信仰と辛抱のゆえに約束のものを受ける人たちに倣ってほしいのです)

11. テモテが会衆で一生懸命働くことができたのはどうしてですか。 (テモテ第一 4:10)

11 テモテ第一 4:10 だからこそ私たちは力を尽くし、努力しています。生きている神に希望を抱いているからです。神は、あらゆる人、特に忠実な人たちの救い主ですを読む。テモテは、生きている神エホバに希望を抱いていました。それで、エホバや仲間のために働くことに全力を尽くしました。どんな努力を払ったのでしょうか。テモテは使徒パウロから、教える点やみんなの前で話す点で成長するように勧められました。若者も年長の人も含め、仲間のクリスチャンに対して良い手本になるようにとも言われました。また、必要な場合にははっきりと親切に助言を与えるといった難しい仕事を任されました。(テモ一 4:11-16 これからもこうした命令を与え、教え続けてください。12 あなたが若いからといって、誰にも見下されないようにしなさい。かえって、言葉や振る舞い、また愛、信仰、清さ(*貞潔さ)の点で、忠実な人たちの手本となってください。13 私がそちらに行くまで、朗読と説き勧める(*励ます)ことと教えることに励んでください。14 預言に基づいて長老団があなたに手を置いた時に与えられた贈り物(*能力)を、軽視してはなりません。15 これらのことについてよく考え(*黙想し)、打ち込みなさい。そうすれば、あなたの進歩は誰の目にも明らかになるでしょう。16 自分自身と自分の教えに絶えず注意を払いなさい。これらのことを粘り強く行いなさい。そうするなら、あなたは自分自身と、あなたの言葉に耳を傾ける人たちを救うことになります。テモ二 4:1-5 キリスト・イエスは現れる時に、王国の王として、生きている人と死んでいる人を裁くことになっています。私はそのキリストと神の前で、あなたに厳粛に言い渡します。2 神の言葉を広めなさい。順調な時にも困難な時にも熱心に(*緊急性を意識して)伝道しなさい。いつも辛抱強く、教える技術を駆使して、戒め、忠告し、励まし(*説き勧め)なさい。3 人々が健全な(*有益な)教えを聞こうとしなくなる時期が来るからです。彼らは自分たちの欲望に従って、耳をくすぐるような話(*自分たちが聞きたい話)をしてもらうために教師を寄せ集めます。4 そして、真理に耳を傾けなくなり、作り話に注意を向けます。5 しかしあなたは、どんな場合にも頭がさえた状態(*鋭敏な感覚/冷静さ)を保ち、苦しみに耐え、福音伝道者として働き(*良い知らせを伝え続け)、自分の奉仕を十分に行いなさい) テモテは、自分のしていることが誰にも気付かれなかったり感謝されなかったりしても、エホバが報いてくれることを確信していたでしょう。(ロマ 2:6, 7 そして、神は一人一人の行いに応じて報います。7 忍耐して善を行い、栄光と栄誉と不朽性を求めている人には、永遠の命を与えます)

12. 長老たちが一生懸命奉仕する上で、どんな見方は役立ちますか。 (写真も参照。)

12 現代の長老たちも、自分たちが一生懸命働く姿をエホバが見ていて高く評価してくれていることを確信できます。多くの長老たちは、牧羊や教えること、伝道に加え、建設奉仕や災害救援のサポートもしています。患者訪問グループや医療機関連絡委員会で働いている人たちもいます。そのような仕事を行っている長老たちは、会衆を人間のつくった組織とではなくエホバのものと見ています。それで、エホバが必ず報いてくれることを確信し、全力を尽くして奉仕を行います。（[コロ 3:23, 24](#) 何をしていても、人のためではなくエホバ(*)のためにするように、自分の全てを尽くして行いましょう。24 皆さんは、報いとしてエホバ(*)から財産を受けることを知っています。主人であるキリストに一生懸命仕えてください）



生きている神エホバは、会衆のために一生懸命働く人に報いてくれる。（12-13 節を参照。）

13. 私たち一人一人が払う努力についてエホバはどう感じていますか。

13 みんなが長老として奉仕しているわけではありません。でも、誰もがエホバのために何かをすることができます。エホバは私たちがベストを尽くすのを見て喜んでくださいます。少額であってもエホバの証人の活動のために寄付をする時、目を留めてくださいます。人前で話すのが苦手でも手を挙げてコメントしようと努力する時、喜んでくれます。いらいらさせられてもそれを見過ごして許そうとする時もそうです。思ったほどできていないと感じるとしても、できていることをエホバは評価してくれるということを覚えていましょう。エホバは頑張っている私たちのことをいとおしく思い、報いてくれます。（[ルカ 21:1-4](#) さて、イエスが目を上げると、裕福な人たちが寄付箱に寄付を入れているのが見えた。2 次いで、貧乏なやもめがごく小額の小さな硬貨 2 枚を入れるのを見て、3 こう言った。「はっきり言いますが、この貧しいやもめは、彼ら全てよりたくさん入れました。4 あの人たちは皆、余っている中から寄付を入れましたが、この女性は乏しい中から自分が持つ生活費全てを入れたからです」）

生きている神エホバから決して離れない

14. エホバとの強い友情は、正しいことを行う上でどのように助けになりますか。（写真も参照。）

14 エホバが自分にとって現実の存在であれば、エホバから見ても正しいことを行いやすくなります。ヨセフの場合がそうでした。ヨセフは、性的に不道徳なことをきっぱり避けました。自分のすることがエホバの感情に影響を与えることを知っていて、エホバを悲しませることはしたくないと思っていたからです。（[創 39:9](#) この家に私の上に立つ人はいません。ご主人さまが私に下さらないものは

ありません。でもあなたは別です。奥さまだからです。そのような非常に悪いことをして、神に対して罪を犯すことなど、どうしてできるでしょうか) エホバを現実の存在として身近に感じるためには、時間を取って祈り、神の言葉である聖書を学ぶ必要があります。そのようにするとエホバとの友情は深まっていきます。ヨセフのようにエホバとの強い絆があれば、エホバが悲しむようなことはしたくないと思うはずです。(ヤコ 4:8 神に近づいてください。そうすれば、神は近づいてくださいます。罪人たち、手を清めてください。優柔不断な人たち、心を清めてください)



エホバとの強い絆は、エホバから見て正しいことを行う助けになる。(14-15 節を参照。)

15. 荒野にいたイスラエル人の例からどんなことを学べますか。 (ヘブライ 3:12)

15 エホバが生きている神であることを忘れると、簡単にエホバから離れてしまいます。荒野にいたイスラエル人の例を考えてみましょう。エホバがいることは分かっていたが、自分たちが必要としているものをエホバが本当に与えてくれるのかを疑い始めました。「エホバは私たちの中にいるのか、いないのか」とさえ言いました。(出 17:2 民はモーセに不平を言うようになり、「水を飲ませてくれ」と言った。モーセは言った。「なぜ私に不平を言うのですか。どうしてエホバを試し続けるのですか」、7 モーセはその場所をマッサ(*試すこと)、またメリバ(*言い争い)と名付けた。イスラエル人が不平を言った(*言い争った)から、また、「エホバは私たちの中にいるのか、いないのか」と言ってエホバを試したからである) 結局、イスラエル人はエホバに反逆してしまいました。このことは私たちにとって警告となっています。不従順になったイスラエル人のようにならないよう注意しましょう (ヘブライ 3:12 兄弟たち、皆さんの誰も、生きている神から離れて、信仰が欠けた悪い心を育てることがないように、気を付けてください読む

16. どんな時に私たちの信仰は試されますか。

16 私たちは、エホバから引き離そうとする影響力がある世の中で生活しています。神の存在を認めない人が大勢います。神の基準を無視している人たちが人生を楽しんでいるように見えることがあるかもしれません。そのような時、私たちの信仰は試されます。神の存在を疑うことはないとしても、本当に自分のために行動してくれるのだろうか?と考え始めるかもしれません。詩編 73 編の作者は、まさにそういう経験をしました。神の律法を無視しているのに人生を楽しんでいる人たちを見て、神に仕えることに意味があるのだろうかと思うようになりました。(詩 73:11-

13 彼らは言う。「神は気付くだろうか。至高者は本当に知っているのか」。12 こうした悪人は気楽に暮らしている。自分の資産を増やしている。13 私が清い心を保とうが、手を洗って潔白でいようが無駄なのだ」

17. エホバから決して離れないようにする上で、どんなことが助けになりますか。

17 詩編作者はどのようにして正しい見方を取り戻すことができたでしょうか。エホバを忘れて離れていく人たちがどうなるかをじっくり考えました。（詩 73:18, 19 あなたは確実に悪人を滑りやすい土地に置く。滅びに陥れる。19 悪人は急に破滅する。突然に終わりを迎える。恐ろしい結末を、27 間違いなく、あなたから離れている人たちは滅びる。あなたのもとから去る不誠実な人を皆、あなたは消し去る）そして、神に仕えることがどれほどためになるかを考えました。（詩 73:24 あなたは助言して導いてくださり、そうして私が栄光を受けるようにしてくださる）私たちも同じようにできます。エホバがこれまで自分のためにどんな素晴らしいことをしてくれたかや、エホバに仕えていなかったら今ごろどうなっていたかを考えましょう。そうすることは忠実にエホバに仕え続ける助けになります。きっと、次のように歌った詩編作者と同じ気持ちになるでしょう。「私にとって、神に近づくのは良いことだ」。（詩 73:28 私にとって、神に近づくのは良いことだ。私は、主権者である主エホバのもとに避難した。その方の行い全てを知らせるために）

18. これから起きることを不安に思う必要がないのはどうしてですか。

18 終わりの時代にどんなことが起きるとしても、心配は要りません。私たちは「生きている真の神に仕え」ているからです。（テサ 1:9 人々は、私たちが皆さんに初めて会った時の様子や、皆さんがどのように偶像から離れて、生きている真の神に仕えるようになったかを話しています）エホバは現実の存在で、私たちのことを気遣い、どんな時も助けてくれます。これまでご自分に仕える人たちと一緒にいたように、私たちとも一緒にいてくれます。間もなく、これまで経験したことのない大患難が起きます。でも、自分たちだけで立ち向かうわけではありません。（イザ 41:10 恐れてはいけない。私があなたと共にいる。心配してはいけない。私があなたの神である。私はあなたを強くし、必ず助ける。私の正義の右手であなたをしっかりと支える(*つかんで離さない)）「私たちは勇気を持ってこう言えます。『エホバは私を助けてくださる。私は恐れぬ』」。（ヘブ 13:5, 6 お金を愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」。6 それで、私たちは勇気を持ってこう言えます。「エホバ(*)は私を助けてくださる。私は恐れぬ。人が私に何を与えるだろう」）

エホバが「生きている神」であることを覚えていると...

1. どのように力づけられますか。

・S05 エホバが生きていて何があっても助けてくれることを忘れないでいるなら、どんな試練も忍耐できる。エホバにとって難し過ぎる問題はない。エホバは全能者で、私たちに忍耐する力を与えることができる。試練に遭った時にエホバの助けを実感すると、もっと大きな試練に直面しても大丈夫だと思えるようになる。

・S08 生きている神エホバがいつでも助けてくれることを覚えているなら、試練を忍耐できる。エホバがこれまでしてきたことを考えると、そのことへの確信が深まる。

2. エホバが報いてくれるという確信がどのように深まりますか。

・S10 エホバが私たちに報いを与えたいと思っていることや、そうする力を持っていることを私たちは確信している。そう考えると、一生懸命エホバに仕えたいと思うようになる。

・S11 テモテは、生きている神エホバに希望を抱いたので、エホバや仲間のために働くことに全力を尽くした。テモテは使徒パウロから、教える点やみんなの前で話す点で成長するように勧められたり、若者も年長の人も含め、仲間のクリスチャンに対して良い手本になるようにとも言われた。また、必要な場合にははっきりと親切に助言を与えるといった難しい仕事を任せられた。エホバが報いてくれることを確信していたので、自分のしていることが誰にも気付かれなかったり感謝されなかったりしても、一生懸命働けた。

3. エホバから決して離れないようにする上でどのように役立ちますか。

・S14 エホバが自分にとって現実の存在であれば、エホバから見て正しいことを行いやすくなる。エホバを現実の存在として身近に感じるためには、時間を取って祈り、神の言葉である聖書を学ぶ必要がある。そのようにするとエホバとの友情は深まっていく。ヨセフのようにエホバとの強い絆があれば、エホバが悲しむようなことはしたくないと思うはず。

・S16 エホバから引き離そうとする影響力がある世の中で生活していて、神の存在を認めない人や神の基準を無視している人たちが人生を楽しんでいるように見えることがあるかもしれない。そのような時、私たちの信仰は試されます。神の存在を疑うことはないとしても、本当に自分のために行動してくれるのだろうか？と考え始めるかも。

・S17 エホバを忘れて離れていく人たちがどうなるかをじっくり考え、神に仕えることがどれほどためになるかを考える。これまで自分のためにどんな素晴らしいことをしてくれたかや、エホバに仕えていなかったら今ごろどうなっていたかを考える。

・S18 経験したことのない大患難が起きても、自分たちだけで立ち向かうわけではない。エホバは何時でも共に居て助けてくださるので、心配する必要はない。

3 番の歌 私たちの力、希望、確信

^ (詩 18:46) エホバは生きている。私の岩が賛美されますように。私の救いの神がたたえられますように。

^ (テモ二 3:1) このことを知っておきなさい。終わりの時代は困難で危機的な時になります。

^ (エレ 10:10) しかし、エホバは本当に神である。生きている神、永遠の王。その方の憤りによって大地は震え、どの国民もその方の糾弾に耐えられない。